

るくおん通信

発行日： 1992年9月15日

No. 46号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

図・表・写真などの音声訳について〔2〕

3. 具体的な処理の方法

では、墨字の本のそれと同じ役割を果たすことのむずかしい図・表・写真などを、具体的にどう処理するのか、ここでは処理の方法を考えてみます。

〔1〕 図・表・写真などは文章化して録音する。

録音図書では表などそのまま読めばいいものを除いて図・表・写真などはいずれも音声訳者が文章化してそれを読むことになります。音声訳者が文章化する時に注意すべき点として、

・ 図か、表か、写真か、

・ 原本のどのページにある図（表・写真）か、

がはっきりしていることが大切です。又、音声訳者の文章は本文とはっきり区別できなければなりません。具体的には以下の順序で読みます。

「〇〇ページ（図・表・写真などのあるページ）図（表、写真…）タイトル（出典、そえられた説明文もあれば読む）、説明…（音声訳者の文章）…説明おわり」（アンダーラインの部分は音声訳者の文章です）

図・表・写真などの説明文を音声訳者の文章のあとで読んだ方がいいような時には、「説明文を読みます」と断わって読みます。ここでも原本の説明文と音声訳者の文章とがはっきり区別できなければなりません。

「…、説明…（音声訳者の文章）…、説明文を読みます…（説明文）…説明おわり」

説明文のあと、更に音声訳者の文章が続くときは、

「…（説明文）…、説明文おわり、…（音声訳者の文章）…説明おわり」

〔2〕 全体の構成について

全体の構成は、

図・表・写真などが原本にどのような役割をしているか、

図・表・写真などを含めて原本の内容を正しく伝えられるか、

利用者の使い勝手はよいか、

などを考慮して、慎重に決定して下さい。処理の仕方は最後まで統一されていなければなりません。

図・表・写真などを文章化するとその内容が本文と重複することがあります。又、複雑な図、大きな表などは説明の文章が大変長くなります。

このように、すべての図・表・写真を本文中で説明することは必ずしも適当でない場合も多いのです。そこで、ここでは全体の構成の仕方として考えられるいくつかの処理を上げてみます。

(1)すべての図・表・写真などを本文中の適当な所で説明する。

(2)説明が本文と重複する図・表・写真などは説明を省略する。

本文中でページ、タイトル等を読み「説明は本文と重複しますので省略します」とコメントを入れる。

(3)録音図書凡例で処理の仕方を断る。

以下のような場合にはあらかじめ処理の方法を録音図書凡例で断ることが必要である。

録音図書凡例で「説明が本文と重複する図(表、写真)は、タイトルとそえられた説明文を読み説明は省略します」と断り、本文中ではページ、タイトル、説明文などの後、「説明省略」または「図(表、写真)おわり」とコメントを入れる。

写真などでそえられた説明文を読むことで大体の想像がつくものについては、録音図書凡例で「写真はそえられた説明文を読み説明は省略します」と断り、本文中ではページ、タイトル、説明文のあと「写真おわり」とする。

顔写真のように説明困難なものについてタイトルも含めて図・表・写真などを省略する。

ex. 『各項目ごとに執筆者の顔写真がありますが省略します』

章、節など項目ごとに図・表・写真などをまとめて録音する。トーンインデックスを利用すればなおよい。

ex. 『図(表、写真)は各項目の最後にまとめて録音してあります。なお各項目の初めにはトーンインデックスを入れていますのでご活用下さい』

すべての図・表・写真を別テープに録音する。これは、

・本文だけを読み進むことが出来る。

・二台のテープレコーダーを使って必要な時に図・表・写真などの説明をきくことができる、などの利点があります。

ex. 『図(表・写真)は別テープ、テープ第〇巻にまとめて録音してあります』

この場合も本文中では図・表・写真などのタイトルを入れるなど図・表・写真などの存在がわかるようにしておかなければなりません。図(表)に通し番号をつけて本文中でこの通し番号を読んでおくと、別テープの利用には便利です。トーンインデックスが利用できれば、図(表)ごとに初めに入れるとなお良いでしょう。

正誤表から・・・その21

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
嗅覚	シュウカク	キュウカク	梶	テイ	テコ
興趣	コウシュ	キョウシュ	輪廻転生	リンネン	リンネンジョウ
客地	キャクチ	カクチ	下意識	シタイシキ	カイシキ
沼沢	ヌマサワ	ショウタク	深奥	シンオク	シンオウ

二通りの読み方がある各々意味が異なるもの・・・その8

洒落	シヤ	しゃれていること。生意気	拾得	シュウク	拾うこと
	シヤレ	気のきいたさま。粹なこと		ジツク	唐代の僧
宿屋	シヤヤ	瓦葺、又は板葺屋根の家 (越前地方でいう)	香水	コズイ	化粧品の一つ
	ヤヤ	宿泊所、旅館		コズイ	仏前に供える水
異	イ	ことなるさま	解散	カイヤク	集まっている人が別れ散ること
	ケ	まさるさま、特出するさま		ゲヤク	とけてなくなること。

— Q & A —

Q：グループで最近校正を実施していますが、なかなかうまくいきません。校正をスムーズに進めるにはどうしたらよいでしょうか。

A：録音図書は、1.明瞭な録音で、2.聞き易く、3.かつ正確でなければなりません。少なくとも校正は、この3.の正確でなくてはならない作業を保障する上でかせない作業の一つですが、それだけではありません。録音状態や、聞いて内容が正しく伝わるか、構成上の処理は適切かなどなどもチェックするわけですから、1.や2.の作業も行うことになります。つまり校正者の役割は音訳者を育てるという重要な仕事でもあるわけです。グループのメンバーが校正の役割、重要さをよく認識していく必要があります。間違いをそのままにしていることは、音訳者の間違いを視覚障害者に広めていく作業をしていることにもなりますし、著作者にとっても不愉快なことです。校正と訂正の作業は、音訳者と校正者の2者だけに任せるのではなく、内容によってはグループの責任者が入って相談しながら決定していくなどの体制もつくりながら進めてく必要があるでしょう。

◇◇ このコーナーでは質問にお答えします。どんな事でも結構ですのでご質問があれば、お寄せください。(清水)

音訳研修の会のご案内

日時 1992年9月30日(水)
13:30~16:00

場所 盲人情報文化センター9階ホール
講師 新井洋子氏

内容 ~小説の読み方の研究~
1. 誰が袖
2. 移り変わり
3. 埋もれ木

グループ連絡会のご案内

日時: 1992年10月30日(金)
13:30~15:30

場所: 盲人情報文化センター9階ホール

内容: 1. グループリーダーを中心に処理の研修。(『ろくおん通信』を題材)
2. グループケアの研修内容の検討
3. グループ交流、その他